

サプライチェーン排出量算定セミナー

9月10日(大阪)

サプライチェーンの温室効果ガス 排出量の算定について

スズキ株式会社
技術支援部環境課 濱俊夫

サプライチェーンの温室効果ガス排出量の算定について

1.会社概要

2.サプライチェーン排出量算定の目的

3.算定の上で苦労した点

4.環境省による支援の内容とその感想

5.算定結果の今後の活用について

サプライチェーンの温室効果ガス排出量の算定について

1.会社概要

2.サプライチェーン排出量算定の目的

3.算定の上で苦労した点

4.環境省による支援の内容とその感想

5.算定結果の今後の活用について

会社概要

社名	スズキ株式会社
所在地	静岡県浜松市南区高塚町300
設立	1920年3月
資本金	138,014百万円
売上高	3,015,461百万円(連結)
主要製品	二輪車・四輪車・船外機・電動車いす・産業機器
従業員数	14,751人(連結対象会社合計 57,409人)

【販売製品例】



二輪車：隼



四輪車：ハスラー



船外機：DF200A

サプライチェーンの温室効果ガス排出量の算定について

1.会社概要

2.サプライチェーン排出量算定の目的

3.算定の上で苦労した点

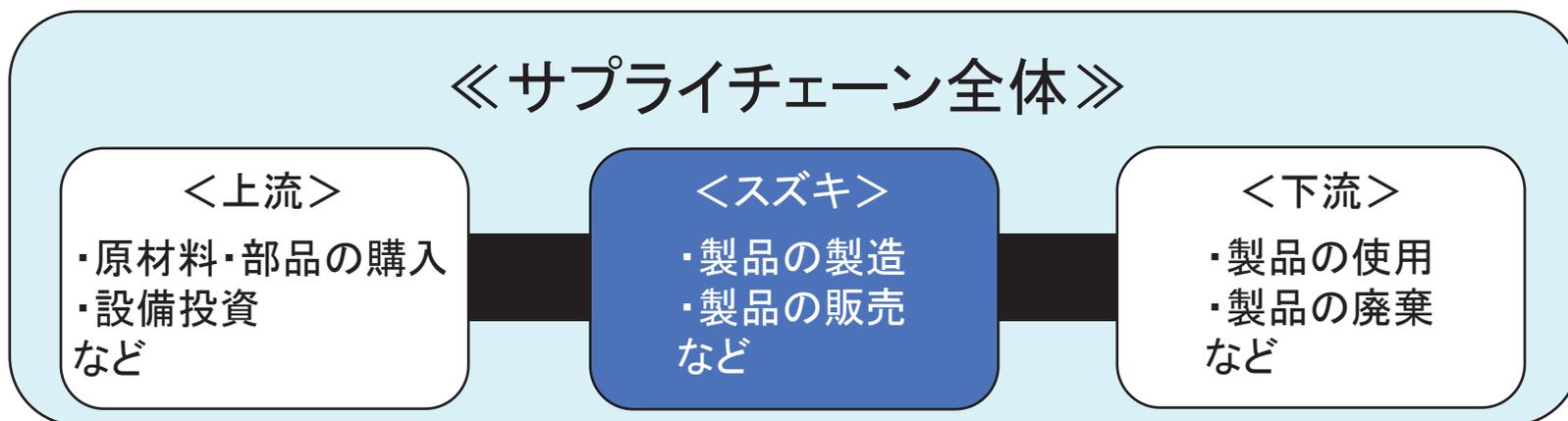
4.環境省による支援の内容とその感想

5.算定結果の今後の活用について

サプライチェーン排出量算定の目的

スズキ製品は、二輪車・四輪車及び船外機等内燃機関を搭載し、製品使用過程における温室効果ガス排出がサプライチェーン全体で排出する温室効果ガスの大半を占めると考え、燃費向上に取り組んできた。

サプライチェーン全体の温室効果ガス排出割合を把握することにより、この対応が正しいのかを確認することに加え、製品改善だけでなく、事業活動における温室効果ガス削減の注力点を明確にする必要があると考えたため、本算定を行った。



算定対象範囲

カテゴリー	会社数	拠点数	対 象
自社	1	65	工場・オフィスなど
国内連結子会社	65	70	製造会社・販売会社など
海外連結子会社	31	37	製造会社・販売会社など (26か国)
合計	97	172	

自社及び国内・海外全ての連結子会社におけるオフィス・製造・販売などの拠点について算定した。

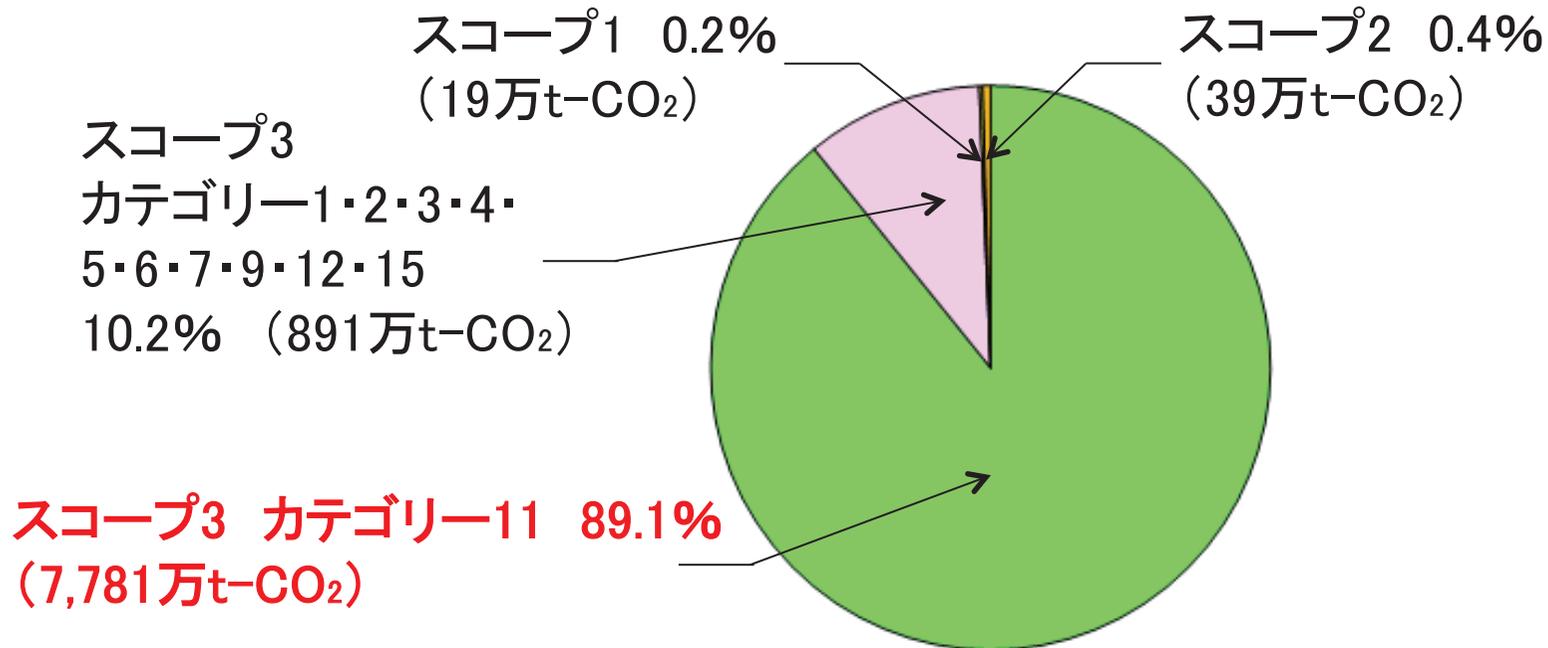


サプライチェーン排出量算定の方法

カテゴリー	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリー1「購入した製品・サービス」	原材料ごとの調達量	CFPデータベースの原材料ごとの原単位
カテゴリー2「資本財」	資本財の投資額	金額当たり原単位※
カテゴリー3「スコープ1・2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	電気・化石燃料のエネルギー使用量 や水使用量	CFPデータベースのエネルギー量当たり原単位
カテゴリー4「輸送、配送（上流）」	荷主分、サプライヤー輸送に係る輸送 トンキロ	CFPデータベースのトンキロ当たり原単位
カテゴリー5「事業から出る廃棄物」	廃棄物種類別排出量	廃棄物種類別原単位※
カテゴリー6「出張」	交通費支給額	交通費支給額当たり原単位※
カテゴリー7「雇用者の通勤」	交通費支給額	交通費支給額当たり原単位※
カテゴリー8「リース資産（上流）」	未算定	
カテゴリー9「輸送、配送（下流）」	販売した製品のトンキロ	CFPデータベースのトンキロ当たり原単位
カテゴリー10「販売した製品の加工」	完成車販売が主な事業なので、加工に伴う排出の影響は少ないと考え算定から除外	
カテゴリー11「販売した製品の使用」	地域別に販売した製品の燃費、 年間走行距離、使用年数を考慮	CFPデータベースのエネルギー量当たり原単位
カテゴリー12「販売した製品の廃棄」	廃棄物の種類別排出量	廃棄物種類別原単位※
カテゴリー13「リース資産（下流）」	未算定	
カテゴリー14「フランチャイズ」	未算定（日本はフランチャイズがないため算定対象外だが、海外は活動量の収集が困難なため未算定とした）	
カテゴリー15「投資」	投資先のスコープ1・2の排出量に株式の保有割合を考慮	
その他	未算定	

※環境省DB（サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース）

サプライチェーン排出量算定の結果



2013年度にサプライチェーン全体が排出した
温室効果ガス排出量 8,730万t-CO₂

2013年度のサプライチェーン全体が排出する温室効果ガスを算定した結果、「カテゴリー11のスズキが販売した製品の使用」が占める割合が89.1%と大部分を占めていることが分かり、今まで当社が取り組んできた燃費改善などの項目が、温室効果ガスを多く排出する”Hot Spot”であることを再認識した。今後も優先して対応を進める。

同時に今回の取り組みカテゴリー1購入した物品・サービスの排出割合が多いことが解り、購入先との協働が必要であることが解った。

サプライチェーン排出量算定の課題

- 当社のようにグローバルで事業活動を行っている場合は、活動量(エネルギー使用量、廃棄物発生量、物流量)を把握すること自体が困難であり、算定にかかる負担も大きい
- 海外の原単位が存在しないものがあり、日本の原単位を使用していることから、正確性に欠ける

サプライチェーンの温室効果ガス排出量の算定について

1.会社概要

2.サプライチェーン排出量算定の目的

3.算定の上で苦労した点

4.環境省による支援の内容とその感想

5.算定結果の今後の活用について

算定の上で苦労した点

●算定方法の選定・確立

算定方法が多数ある中で、スズキにあるデータをもとにした、より精度の高い算定方法の選定に苦労した。

●活動量の決定・取得

全ての車種において算定を行うことは困難であったので、算定精度の低下を最小限に抑えつつ、効率の良い算定方法を模索することに苦労した。また、海外からのデータ収集に、負担がかかった。

(拠点数が多く、グローバルで事業活動を行っているため(172拠点、27か国)、各拠点の活動量の把握・算定をする必要が有る)

サプライチェーンの温室効果ガス排出量の算定について

- 1.会社概要
- 2.サプライチェーン排出量算定の目的
- 3.算定の上で苦労した点
- 4.環境省による支援の内容とその感想
- 5.算定結果の今後の活用について

環境省による支援の内容とその感想

● 支援の内容

一部の 카테고리について、算定精度を向上させるため、算定方法の見直しを支援してもらった。

未算定の 카테고리について、適切な算定方法を教示してもらった。

● 支援についての感想

算定方法の妥当性の検証ができたことに加え、算定 카테고리の拡大や算定精度の向上ができた。

支援による算定の向上

カテゴリー	算定実施		算定向上内容
	支援前	支援後	
カテゴリー1	○	○	
カテゴリー2	×	○	算定追加
カテゴリー3	○	○	原単位変更による精度向上
カテゴリー4	○	○	
カテゴリー5	×	○	算定追加
カテゴリー6	○	○	原単位変更による精度向上
カテゴリー7	○	○	原単位変更による精度向上
カテゴリー8	×	×	
カテゴリー9	○	○	
カテゴリー10	○	×	検証の結果誤解釈があったため、未算定とした
カテゴリー11	○	○	
カテゴリー12	○	○	
カテゴリー13	×	×	
カテゴリー14	×	×	
カテゴリー15	×	○	算定追加
その他	×	×	

サプライチェーンの温室効果ガス排出量の算定について

1.会社概要

2.サプライチェーン排出量算定の目的

3.算定の上で苦労した点

4.環境省による支援の内容とその感想

5.算定結果の今後の活用について

算定結果の今後の活用について

当社ホームページや環境報告書で、地球温暖化ガス排出量について情報公開することにより、ステークホルダーとの環境コミュニケーションに活用していきます。

カテゴリー11(販売した製品の使用)から排出される温室効果ガスが、サプライチェーン全体の排出量の中でも大きな割合を占めることから、引き続き製品の燃費向上に取り組み、カテゴリー11の排出削減に努めていきます。

カテゴリー1(購入した物品・サービス)の排出について、購入先との協働による温室効果ガスの排出削減活動を検討していきます。

最後に

スズキは、省資源・省エネルギーで地球環境に優しい、軽自動車や小型自動車のグローバルな生産・販売に努めてきました。

今後も、「小さなクルマ、大きな未来。」をスローガンに、お客様の求める、より地球環境にやさしい製品開発に邁進して行くとともに、開発・生産・販売をはじめとした企業活動におけるあらゆる面で、「小さく・少なく・軽く・短く・美しく」を徹底し、地球温暖化ガス排出の少ない効率的な経営に取り組んでいきます。

ご清聴ありがとうございました。